

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol. 80

門入ダムと門入の郷

香川県 さぬき市長

おおやま しげき
大山 茂樹



さぬき市は、香川県の東部に位置し、面積約 159 km²、人口約 5 万 6 千人、四国四県が協力しながら、ユネスコの世界文化遺産登録を目指している四国霊場 88 カ所のうち、上がり 3 カ寺を有する「結願のまち」として、もてなしの心、いやし文化の発信基地となっているほか、気候温暖で、北部の沿岸及び南部の山地丘陵に広がる豊かな緑は、河川、ダム湖、ため池等の多様な水資源と調和し、市の中央部に広がる田園環境にも恵まれています。

このような環境の背景には先人の努力によって、津田川、鴨部川の両水系に大川ダム・前山ダム・門入ダムの 3 つのダムが造られていること等が挙げられますが、特に、津田川は急流のため、古くから大雨のたびに被害が発生していました。

そこで洪水調節・農業用水補給を目的に昭和 38 年に総貯水量 76 万 t の大川ダムが竣工しましたが、それだけでは及ばず、その後も河岸の決壊や氾濫が繰り返されていました。

一方で、津田川水系は、本市の東半分の耕地及び生活用水の水源として広く利用されており、夏期になるとしばしば深刻な水不足に見舞われてきました。

こうしたことから、治水はもとより利水においても早急な対策が望まれ、津田川総合開発事業と

して、津田川の支流の梅檀川に多目的ダムとして総貯水量 290 万 t の門入ダムが平成 11 年に完成し、これにあわせて、門入ダム周辺は「門入の郷」として、これまでの緑地公園の概念をはるかに超える「オープンエアミュージアム」をテーマに整備されました。

門入ダムを入り口として「門入ブリッジ」や「椿の城」など点在する施設や、自然が織りなす空間すべてがまるでアートのような存在で、訪れた人たちが思い思いの発想で想像し、創造する空間が広がっており、心地よいダム湖の爽やかな風を感じながら、穏やかなひとときを過ごせる憩いの場として親しまれています。

また、夏には「門入よさこい」が開催され、県内外からよさこい連が訪れ、熱い踊りで見る者を熱気で包み湖面を焦がすなど、水そのものが暮らしにもたらす豊かさや、その風景たちが心に届ける潤いを体感できる「人と自然のやさしい共生のシンボル」となっています。

今後も環境・自然との共生を図りながら、安心して暮らせるまちづくり、心の豊かな暮らしづくりを目指したいと思っています。



ダム堰堤全景



門入ブリッジ



門入



風の門